

Ⅲ 聴覚障害特別支援学級・聴覚障害通級指導教室充実と

発展のための要望

聴覚に障害をもつ児童・生徒の将来の社会参加に向けて、障害を早期に発見し、それぞれの発達段階、ニーズに応じて必要な支援を受けられるよう、下記の点についてご配慮、ご検討をお願いします。

- ・入学前聴覚スクリーニング検査を全校で実施すること
- ・在住地域で聴覚特別支援学級や通級指導教室に通えるようにすること
- ・研修会等で聴覚障害についての理解を広げる場を設定すること
- ・通常学級に在籍する聴覚に障害を持つ児童・生徒の実態調査を全県で行うこと

本県で実施されている、「FM 補聴システムの送受信機の貸出（無料）事業」は、障害者手帳の対象とならない軽・中等度の難聴をもつ幼児・児童・生徒の補聴を助け、幼児期から学童期への切れ目ない学習機会を確保することにつながっています。大変有効なため、無料貸し出し期間後も、延長や購入を考える方が多いと聞いています。この事業があることで、静岡県乳幼児聴覚支援センターが中心となって、貸与児童と学校（園）・地域の聴覚特別支援学級（校）や通級指導教室をつないでいただき、学校（園）で適切な支援を受けることができるようになった例もありました。これらの事業に関してのご尽力に心より感謝申し上げますとともに、今後も、継続、拡大していただけますよう働きかけをお願いします。

さて、新生児聴覚スクリーニング検査の実施に伴い、早い時期に聴覚の問題を発見できるようになったため、高度・重度難聴があっても人工内耳や補聴器による早期の補聴開始、コミュニケーション指導を受け、通常の学級に在籍する児童生徒も増えています。しかし、検査以降に聴力が落ちたり、未受診のため発見が遅れたりする児童もまだいるようです。また、新生児期に問題が発見されても、軽・中等度難聴や一側性難聴の場合、家庭や園ではそれほど不都合がないように見えるため、就学と共に医療面での支援を終了し、学校で特別な配慮を受けていない児童生徒も多数います。このような軽・中等度難聴や一側性難聴の児童生徒の多くは、環境によってある程度の会話ができるので、「（いつでも）聞こえている」「補聴器をつけているから（全部）聞こえている」と思われがちです。本人も聞き漏らしていることに気付かないので、友達に「無視した」と誤解されたり、後に大きな失敗やトラブルになってしまったりしたという例は少なくありません。通常の学級に在籍する児童生徒も同様の困難さをかかえているといえます。これは、FM 補聴システム貸与児童の感想（資料Ⅲ-①）にもあるように、どれだけ聞き落としているのか難聴児自身にも分からないこと、聴覚障害についての正しい理解が進んでいないことが大きな原因だと思われま

このようなことを解消するには、就学前に聴覚に障害がある児童を把握し、乳幼児期の情報を共有した上で、適切な配慮について保護者と職員が共通理解して支援していくことが必要です。しかし、令和元年度の県内の入学前健康診断における聴力検査の実態を見ると、少し減少したものの未実施の学校がまだ残されています。（回答 83。小学校の 26.5%にあたる。）（資料Ⅲ-②）。「小学 1 年生になってすぐに聴力スクリーニングを実施するからやっていない」という地域がありますが、就学時検診のときに聴覚スクリーニングをやってない園児が、吃音でことばの教室に入級しましたが、よく調べてみると聴覚に障害があったということが分かり、指導の課題が適当でなかったという事例の報告もあります。一方で、本会アンケート調査時は未実施だったある市が令和 2 年度から実施するという

朗報も入っています。早急に、学校保健安全法施行規則の規定に基づき、県内の全小学校において、入学前健診で聴覚スクリーニング検査が実施されるよう働き掛けをお願いします。また、令和元年5月17日に、当研究会定例研修会において静岡県立総合病院副院長、静岡県乳幼児聴覚支援センター(きこえとことばのセンター) 所長 高木 明先生の講演の中で「人工内耳を装着した子どもに早期の介入を行えば、通常学級での学習が可能な言葉の獲得が期待できるが、現状では十分な支援の場がないために、人工内耳の効果が表れていないケースがある」という報告がありました。乳幼児期における難聴教育の充実も進めていくことが望まれます。

聞こえにくさは目に見えないので、聴覚に障害をもっていても、学級では集団の中で健聴児と同じように正しく聞き取ることが求められます。聞こえにくくても、特別な支援を受けずに困っている児童生徒は大勢いると思われます。また、中学生になると、教科担任制、部活動という人間関係の複雑さも加わり、自分のきこえに自信がなく、不安があっても口にできない生徒は、学習意欲の低下や不登校など、二次的な障害につながることも懸念されます。

そこで、在住地域で聴覚特別支援学級や通級指導教室に通えるようにすることをお願いします。在住地域に支援を受けられる学級や通級指導教室があれば、指導を受ける時間を増やしたり、同じ障害をもつ仲間と気持ちを伝え合ったりすることができ、低学年から障害理解についての支援教育を受けることもできます。何より、近くにあることで、在籍学級担任と密に連携し、学級でのよりよい支援について共通理解することが可能になります。現在は、聴覚特別支援学校が実施しているサテライト方式での通級による指導がその役割を担っており、専門性の高い教員の指導を近くの学校で受けることができる良さがあるというものの、片道10km以上の道のりを往復2時間以上かけて通級している児童・生徒も多いそうです。また、指導に当たることができる教員やサテライト校の数も、児童生徒のニーズに十分応えているとはいえません。そこで、指導を必要としている児童生徒が、様々な機関との連携の中で、在住地域で十分に専門的な指導や障害理解教育を受けられるよう、聴覚特別支援学校の教員の増員、聴覚障害特別支援学級や通級指導教室の拡充をお願いします。

8歳で中等度難聴と分かり、「(医療面での) 支援は不要」と言われたので、6年生になるまで誰にも相談していない児童がいました。彼女は、11歳で補聴器を装用し始めたものの、使いこなすどころか周囲の目を気にして学校では使用せず、聞き取れないことを自分の努力不足と捉えていました。「間違っただけで恥ずかしい思いをしないよう、友達とトラブルにならないよう、常に周囲に気を配っているので、家に帰ると疲れ果ててしまう。」と話していました。また、難聴通級指導教室に通級する小学生の保護者は、中学校での生活や学習(特に英語や社会)、高校受験に大きな不安をもっています(資料Ⅲ-③)。英語のヒアリングの受け方など受験方法は対応してもらえると聞いていますが、実際には、中学校で個に応じた支援がなされていないため、自分に合った受験方法が分からず支援を受けられないこともあるようです。本県における共生社会の形成のための特別支援教育が推進されつつある今、聴覚障害についての基礎的環境整備の1つとして、県内のすべての高校で、難聴生徒も「聞くことができる」という平等な条件のもとで受験でき、入学後も継続して支援を受けられるようにすること、難聴の児童生徒の真のニーズを把握できるようにすることが望まれます。

そのためには、医療機関や市町の保健センター等と連携し、情報を共有して支援することはもちろん、聴覚障害についての正しい理解をさらに広げ、合理的配慮の基礎となる環境整備の向上につなげていく必要があります。幼・小・中・高等学校の特別支援教育コーディネーターや就学支援担当・養護教諭等の研修会で、聴覚に障害を持つ幼児児童生徒の困難さについて学ぶ場を設定し、障害についての理解を広げる働きかけをお願いします。

聴覚に障害をもつ児童生徒の将来の社会参加に向けて、障害を早期に発見し、発達段階やニーズに応じて必要な支援を受けられるよう、オージオメーターを使用しての入学前聴覚スクリーニング検査を県内の全小学校で実施し、在住地域で聴覚特別支援学級や通級指導教室に通うことができ、研修会等で聴覚障害についての理解を広げる場を設定していただけるよう、更なるご配慮、ご検討をお願いします。

資料Ⅲ-①

「FM 補聴器貸与児童の保護者へのアンケート（県立総合病院乳幼児聴覚支援センターの資料）」より

学習効果について	<ul style="list-style-type: none"> 先生の言っていることが分かるので、自信をもって発表できる。友達と話すことが増え、明るくなったと言われた。 ガヤガヤしている所や、友達が話していても、先生の声が聞き取りやすくなった。 中学では多数の先生の授業を受けるようになるのでさらに有効的に使用できると思う。 運動場や体育館などでは、FM 補聴器を使用することで今まで聞き取れなかった部分を聞き取ることができ、行動しやすくなった。
難聴への理解について	<ul style="list-style-type: none"> 自分では、補聴器を着けているので大丈夫と思っていたが、今まではあまり聞こえていなかったということが分かった。勉強が分かるようになった。 発表する友達が FM 補聴器を使ってくれたのでよく聞き取れた。 集会時も校長先生や、他の先生方が使ってくれて、とても助かっている。
購入について	<ul style="list-style-type: none"> 子どもにとって必要かどうか、買うことに悩んでいたが、6 か月間の無料貸し出しのおかげで FM 補聴器の必要性を感じる事ができた。

資料Ⅲ-② 入学前聴覚スクリーニング検査の実施の実態 調査 83(校)：本会会員在籍校

	東部	中西部	静岡市	浜松市	合計	備考	
実施	14	26	8	13	61		
検査者	教職員	10	12	7	9	37	※1：市で一括。各校に割り当てられた職員が担当
	医師	0	0	0	0	0	
	その他	4	15	1	6	22	※2：園にオージオメーターを貸し出して実施。再検査児のみ小学校。
	園 4 ※2	市職 3 ※1 園 12※2	ことばの教室担当者 1	ことばの教室担当者 6			
オージオメーター使用	14	26	8	13	61		
未実施	13	9	0	0	22		
通級等の支援無し(人数)	6校 (11名)	4校 (10名)	2校 (6名)	1校 (1名)	13校 (28名)		

資料Ⅲ-③ 難聴通級指導教室（富士宮東小みみの教室）に通級する高学年児童の保護者アンケートより

中学校生活について、心配なこと	<ul style="list-style-type: none"> 小学校より授業の内容が量・質共に多くなると思うので、勉強についていけるか。（特に英語・社会） 聞こえにくいことが原因でいじめられないか。 聞こえについて先生や友達の理解が得られるか（FM補聴システムを使用することを特別な目で見られるのではないか。） クラスや部活で、友達や先輩の話を聞いてうまくやっていけるか。 本人は「聞こえているから大丈夫」と言うが、本当はどの程度理解できているのか。
-----------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時にきちんとした情報が得られるか。
学校に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の難聴への理解。 ・試験のとき等に、特別扱いと思われないよう、配慮してほしい。 ・受験に当たっては、いろいろな情報がきちんと得られるように配慮していただきたい。
難聴通級指導教室に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・きこえについて、先生や友達との理解が得られるよう相談にのってほしい。学校に働きかけてもらえるとありがたい。 ・中学の通級教室が近くにあれば、授業や部活を休まずに通級できるので、通級したい。 ・聴覚障害児が受けられる受験についての配慮、情報を教えてほしい。 ・同じ障害の先輩や保護者の話ができる機会を作ってほしい。